

久留米

[December 22, 2014]

高専通信

第77号

久留米工業高等専門学校

〒830-8555 久留米市小森野1-1-1

TEL:0942-35-9300

<http://www.kurume-nct.ac.jp/>久留米工業高等専門学校
校長 上田 孝「他を敬し、己を敬し、
事物を敬す」

最近「失敬」という言葉をあまり聞かなくなりました。普段の生活の中では「失礼」という言葉をよく耳にします。辞書によれば、「失礼」は「儀を欠く振る舞いをする事。失敬。無作法」であり、「失敬」は「人に対する礼儀や敬意に欠けること。無礼なこと。失礼」と解説されています。両語とも同じような意味で使われますが、文字どおり捉えれば、「失礼」は礼儀を失すること、「失敬」は敬意を失することです。

「敬意」は英語ではrespectが一般的です。respectといえは「尊敬」ということで、歴史上の偉人などを尊敬するという意味ばかりを思いがちですが、admireやesteemのような好意や愛情を抱いて敬うような意味合いに比べ、respectは価値のあるものに対してそれにふさわしい敬意を払うという意味で使われ、尊敬の他に、尊重する、配慮するという意味もあります。

佐賀県唐津市の出身で、明治時代の経済学者である天野為之(あまのためゆき)は、「他(た)を敬(けい)し、己(おのれ)を敬し、事物(じぶつ)を敬す」という「三敬主義」を唱えました。「敬の気持ちをもって他人に対すれば礼となって和の徳を生じ、己に対すれば自重自立となる。また机上の雑務から一国の政治まで、すべて敬をもって扱えば、事物はその性能を発揮して久しく耐え得る」という意味を持っているそうです。先生や目上の人を敬う、そして「親しき仲にも礼儀あり」と言われるように、友人にも敬意をもって接する、ここまでは皆さんも、これまでに耳にタコができるほど言われてきたことだと思いますが、私がこの言葉を気に入っている理由は、他人ばかりではなく、自分にも敬意を払う、つまり自分自身も他人と同様に尊重しなさい、さらには、モノにも事柄にも敬意を持って当たりなさいという点です。明治時代の人、なかなか洒落たことを言っているとは思いませんか？

天野為之は、当時の東京専門学校(現在の早稲田大学)の創設に携わって教鞭をとり、日清戦争後の我が国の急速な商工業の発展を背景として発足した大学部商科(現在の商学部)の初代科長となって、理論に偏らない実務教育を推進し、商科を大きく育て、早稲田大学第二代学長を務めました。また、大学入学前の中等教育においても、大学レベルの実業教育を行う必要性を唱え、天野が中心となって設立された早稲田実業中学(後に早稲田実業学校に改称)の校長を30年の長きにわたり務めています。

日本の急速な商工業の発展を背景に発足し、大学入学以前の年齢で、大学水準に匹敵する理論も学ぶ実践的教育を行う実学志向！高等専門学校に似ている感じがしませんか？

ちなみに、天野は学問の分野においても、当時、我が国の経済学では、外国の文献の翻訳的なものが多い中で、外国の学問を咀嚼消化して独自の経済学を打ち立て、東京専門学校での講義をもとに『経済原論』を発刊し、福澤諭吉、田口卯吉とともに明治前期の三大経済学者として挙げられています。

英語のRespectは、ラテン語のrespectus(振り返る、振り返って見る)を語源としています。他人に敬意を払うことは当然ですが、自分にも敬意を払うことは、天野博士が言うように、自重や自立につながり、また、何かに失敗したときでも、自分自身を粗末に扱わずに客観視することができ、さらには事物まで敬することは、ノーベル平和賞受賞者のケニアのワンガリ・マータイ女史が来日された際に感銘を受けた日本語で、最近日本人に忘れられがちな「MOTTAINAI」にもつながります。「三敬主義」は、人生を歩む上での有用な指針の一つとして、皆さんの頭の片隅に入れておいても損はないものです。

高専祭・体育祭を終えて

高専祭を終えて 高専祭 実行委員会 委員長
制御情報工学科 4年 中村 郁海

前夜祭、中夜祭、文化祭、三日間ともにあいにくの雨でしたが、無事に高専祭を終えることができました。出演して下さった皆様、出店・展示の各団体の皆様、ご協力いただきまして、大変ありがとうございました。

三日間のうち、中夜祭と文化祭の二日間は天候の影響により、終日屋内にてステージを進行しました。昨年の文化祭も同じように屋内ステージで行いましたが、屋外で実施できないというのは大変悔しいものでした。それにも関わらず、両日ともに大変多くの皆様にお越しいただき、大変感謝しています。

第49回高専祭のテーマは『心～高専生はとんでもないものを盗んで行きました～』でした。悪天候にもかかわらず、高専祭に足を運んで頂きありがとうございました。皆様の心を掴んで離さず、いつまで経っても忘れられないような、そんな高専祭を目指して日々準備をしてきました。今年の高専祭を機に、来年以降も高専祭へと足を運んでくださる方が少しでも増えれば、大変嬉しく思います。

高専祭実行委員となって今年で4年目となりました。今年度は、委員長として実行委員のみんなを引っ張ってきました。辛いこともたくさんありましたが、高専祭が終わった今では、委員長をやることができ、とても良かったと思っています。こんなに密度が濃く、充実した高専祭を過ごせたのは、すべて高専祭実行委員という存在があったからです。来年は、高専祭が50回を迎え、学生からの期待も大きなものになると思います。後輩のみんなには精一杯頑張ってもらいたいと思います。

最後に、学生の皆様、協力して頂いた教職員の皆様、地域住民の皆様、ご来場いただいた皆様、そして高専祭実行委員のみなさんに、心より厚く御礼申し上げます。

体育祭を終えて 体育祭 実行委員会 委員長
材料工学科 5年 井上 愛可

先日、平成26年度体育祭が無事に終了しました。今年も昨年同様、朝から晴天に恵まれまさに体育祭日和という中で「この日を迎えることができた」と昨年度までとは違う気持ちでスタートを切りました。それは今年度高専が創立50周年であるという特別な気持ちであることと、時間通りに、何事もなく無事に終えることができるかという責任感があったからだと思います。

今年の体育祭ではメイン競技を障害物に絞るため、午前中の競技を減らすことで対応しました。「競技に参加する学生も応援する学生も楽しめる様に」と担当責任者と話し合いを重ねながら試行錯誤を繰り返して企画してきました。そこで改めて、人それぞれに考える事が違えば生み出されるアイデアも十人十色だという事を実感しました。一人ひとりが持つ考えを集結し、何か一つを作り上げる素晴らしさを感じることができたのは私にとって大きな経験となりました。体育祭当日は、参加者、応援者どちらの学生もはじけるような笑顔で障害物競争に参加している様子をみて「成功してよかった」と嬉しく思いました。また、「みんなで何かを作り上げる素晴らしさ」を後輩たちにも伝えられて良かったと思います。

結果、時間通りに、何事もなく無事に終えることができました。実行委員全員で協力して進行ができたことが大きな鍵だったと思います。何か問題が発生しても臨機応変に対応してくれたこと、どうすればいいかわからない時でも周りでサポートしながらやり遂げてくれたこと。全員で協力したからこそ今年の体育祭は成功し、50周年を飾る良い行事になったのではないかと思います。本当に今までで一番、素敵な体育祭でした。

昨年の冬に委員長に任命され、委員長をするからには何か後輩たちに残してあげたいという思いで体育祭が終わるまで活動してきました。今振り返るといい意味でも悪い意味でも何かを残すことができたのではないかと思います。良いものは残し、悪いものは改善して来年度からの体育祭に活かして欲しいというのが私の願いです。

最後になりましたが、今まで私を支えてくれた実行委員の皆さん、沢山の教職員の方々、そして体育祭に参加して、盛り上げてくれた学生の皆さん、本当にありがとうございました。



工場見学旅行

工場見学旅行を終えて

機械工学科 4 年 永家 和樹

9月23日、長い期末試験を終えて、私たち機械工学科は4泊5日の工場見学旅行で関東方面に行きました。一日目、羽田空港到着後、お台場のフジテレビ周辺を散策してJALの整備工場を見学しました。工場内では、実際に飛行機に使われているエンジンや、機体を整備している現場を間近に見ることができました。この後、横浜のホテルに向かい、一日目を終えました。二日目は、NSK藤沢工場とニコン横須賀工場を見学しました。NSKでは、大小さまざまなベアリングを見ることができました。また、高専出身の方々に色々な質問にも答えていただきました。ニコンでは、液晶パネルなどを作る露光装置という大きな機械の内部に入って見学することができました。その後、一日目とは違うホテルに向かいました。このホテルは自分たちには豪華すぎるホテルでした。三日目は、横浜から千葉まで移動して出光千葉製油所と新日鐵君津製作所を見学しました。出光では、製油所の敷地がとても広いので、バスに乗って見学しました。その中で、貯蔵する油やガスの性質によって貯蔵タンクの形状が違っていることがわかりました。新日鐵でも、敷地が広大であったためにバスで工場と工場の間を移動しながらの見学でした。圧延を行っている工場では、見学できるところから圧延を行う機械まで少し距離がありましたが、それでもかなりの熱が伝わってきて、いかに高温であるかを体感することができました。この後、新宿のホテルへと向かい三日目が終わりました。四日目は待ちに待った自主研修でした。東京は初めてだったので、迷いそうになりながらも秋葉原を散策したり、上野近くの風呂屋に行ったり、お台場の車を試乗できる施設に行ったりしました。そして五日目は、スカイツリーを見学した後、一同、帰途へと着きました。この旅行では多くのことを学び、そして経験しました。この経験を将来に生かせるように頑張りたいと思いました。



工場見学旅行感想

電気電子工学科 4 年 橋本 純一郎

私たち電気電子工学科は、今回の旅行で、東京工業大学大岡山キャンパス、三菱電機静岡製作所、三菱日立パワーシステムズ、そして日本航空羽田工場を見学させていただきました。2日目に訪れた東工大大岡山キャンパスでは研究室の見学を行いました。先生方は私たちにもわかりやすいよう丁寧に説明してくださり、非常に実のある見学となりました。印象的だったのが久留米高専OBの学生、教授の方々がとても楽しそうにしてあったことです。この大学見学はぜひ来年度以降も続けてほしいと思います。

工場の見学ではどの企業においても従業員の精神衛生面に気を配ってあるのが印象的でした。例えば三菱電機静岡製作所では工場内で音楽を流してあり、三菱日立パワーシステムズでは従業員同士が技能を競える場を設けてありました。また、三菱電機静岡製作所でも久留米高専のOBの方との交流がありました。その方は海外で外国人のお客を相手にされており、お話から英語をコミュニケーションツールとすることの重要性を学ぶことが出来ました。

また、今回の旅行ではこのような見学とともに、思い出をたくさん作ることができました。まず驚いたのが東京や横浜の人の多さです。初めて東京に行った私にはとても新鮮に映りました。クラス全体では、日本科学未来館、横浜の山下公園・赤レンガ倉庫、浅草寺・仲見世通り、江戸東京博物館などを観光しました。自由行動では築地市場で海鮮丼を食べたり、水上バスで隅田川を上ったり、スカイツリーの高さに驚かされたり、アメ横・原宿の賑やかさにわくわくしたりと充実した一日でした。加えて、この旅行でみんなの普段見ることの出来ない一面を見ることが出来たのも貴重な思い出となりました。

今回の旅行は将来について考えるきっかけとなりました。それとともに入学したときは遠く思っていた旅行が終わったことで残りの高専生活の短さを痛感させられました。残りの一日一日を大切にすごしていきたいと思います。



工場見学旅行

工場見学旅行

制御情報工学科 4 年 塩塚 勇気

私達制御情報工学科はこの工場見学旅行で2つの工場と4つの科学館の見学をさせて頂きました。

中でも私は日産の工場見学を経て工場に対するイメージが大きく変わりました。機械化、自動化された作業ライン。通路、作業スペースを広くとり、危険を音で知らせる安全対策。清潔に保たれた工場内部。厳格な環境対策。廃品を再利用し新たな作業道具を生み出すユニークさ。どれも私の持っていた危険、汚い、キツイという3Kや、利益のみを追求する冷たいイメージとは異なるものでした。また自動化作業の多様性や作業人数の少なさを見て、これからの日本の工場のあり方を見たようにも思います。私は「日本には資金も技術もあるが労働力と土地がない」と言う話を聞いたことがあります。

しかし半永久的に安定して作業が出来、人が入るの必要がなければこの問題は解決できます。日産の工場には床のみならず天井にまで張り巡らされた搬送機、危険かつ超重量の作業を安定して行うロボットアームなどがあり、どれも現代の日本の弱みを補ってくれるように思えました。見学先でも機械を使って全自動で行っている工程が一部ありました。ただやはり現段階では細かい確認や自由度の高い作業は人間が行うしかないようで、数人で固まって確認作業を行っておられました。いつの日かすべての工程を自動化出来るようになるかもしれません。日産の工場見学を経て工場に対する考え方が変わったと共に、曖昧であった就職へのイメージをより明確化することができました。

科学館での見学では新しい分野や最新の技術に触れ、少し先の未来を体験することができました。

この工場見学旅行を経て、日本の今と未来の姿を見ることができました。そんな未来を実現できるようにこれから一層努力していきたいと思います。



工場見学旅行感想

生物応用化学科 4 年 加藤 千紘

つらいつらい期末試験を乗り越えて、9月23日から26日にかけて関東地方へ工場見学旅行に行きました。慣れないスーツに身を包んだ私たちは、大日精化工業東京製造事業所、味の素川崎工場、沢井製薬関東工場、JNC石油化学市原製造所の4社を見学させていただきました。

大日精化では顔料や着色剤を扱う化学メーカーにちなんで、製品のインクが使用されているボールペンを、味の素ではほんだしと味の素を頂きました。沢井製薬のスタッカークレーンという自動の輸送機がすごく近未来的だったことと、JNCの製造所が広すぎて見学しきれなかったことが印象的でした。

いずれの企業も本科及び専攻科卒業生が就職し活躍していました。卒業生の社員の方々との懇談の場を与えていただいた企業もあり、卒業後就職を考えている自分にとって、とても貴重な経験となりました。

もちろん企業の見学も良い体験となりましたが、振り返ってみて思い出すのは工場見学以外の時間ばかりです。クラスメートの誕生日をサプライズでお祝いしたり、美味しい中華料理を食べたり、ホテルで朝まで語り明かし、普段できないような経験をたくさん満喫しました。生まれてはじめて行った夢の国は一生忘れられない思い出となりました。

今回の工場見学旅行で、将来自分が働く姿をより具体的に考えることができました。また、クラスの仲の良さも更に深まったと思います。この経験を胸に、来年の進路選択も乗り越えていきたいと思います。

旅行を計画してくださったうえに、動物園のようにうるさい36人の相手をしてくださった先生方と添乗員の森さん、本当にありがとうございました。



工場見学旅行

工場見学旅行

材料工学科4年 田中 望

私たち材料工学科は関東地区に工場見学旅行に行きました。初日には日本航空羽田整備工場、二日目にはJFEエンジニアリング鶴見製作所、日本精工藤沢工場と藤沢技術開発センター、三日目には新日鐵住金君津製鉄所を見学させていただき、四日目には自主研修、五日目には国立科学博物館の見学および上野地区自主研修を行いました。

日本航空では整備工場に入り実際に飛行機が整備されている広大な現場や積まれている精密なエンジンを見ながら仕組みを説明していただきました。また、工場のすぐそばに着陸していく飛行機には感動しました。

JFEエンジニアリングでは工場内にあった巨大な地下トンネル用シールドマシンに圧倒されました。日本精工では、工場内の方々はあいさつで「ご安全に!」という習慣をつけるにより安全性にも心がけていたことや真の球を作り出そうと研究し続ける方々の研究者の目が印象に残っています。

新日鐵住金では伝統的に受け継がれてきた工場内で見える圧延工程は材料の歴史の重みを感じ取ることができました。

これらの工場見学を通して言えることは材料の技術、そして材料そのものがあらゆる場面で駆使されているということです。人々の手に渡るものはほぼ材料としてではなく製品化されたものですが、そのすべては材料でできています。世界中の企業、産業をこれまで、そしてこれからも支え続けていく材料で在り続けるためにも、ただの学校の講義や実験にしないよう材料分野の一人として日々努力していきます。

自主研修でも愉快的クラスメンバーとの絆をより深くすることができ五日間を通して工場見学としても旅行としても充実したものにできました。何よりクラス全員何事もなく無事終えることができたのは協力して頂いた方々のおかげです。本当にありがとうございました。



国際交流関係 (タイ)

タイの高校生との学生交流

企画主事補 黒木 祥光

平成23、25年度に引き続き、本年度も文部科学省委託事業(青少年教育施設を活用した交流事業)の一環として、10月24日(金)にタイの高校生30名と学生交流を行いました。タイの生徒は国立夜須高原青少年自然の家が受け入れており、久留米市近隣にてホームステイを経験し、九州大学を訪問したのち、本校にきました。生徒たちは日本語を第2外国語として学んでいます。本校の滞在は2時間と限られていましたが、高専の特徴を知ってもらうため、3Cおよび5Sの学生との共同実験を企画しました。また、外国人留学生の目を通した本校の状況を知ってもらうため、サラさん、ナンサーさん、イルマン君、Pisizchai先生との会談を用意しました。共同実験後のアンケートを見ますと、90%近い学生がこの取り組みを肯定的(5段階評価で4以上)に感じ、今後も同様な取り組みを行って欲しいとの意見を持っていました。アンケートの意見を参考に次年度以降も続けていきたいと思っています。タイの高校生が日本語を話すので会話を楽しめたようにも見受けられましたが、逆の立場、つまり高専生諸君がタイの学生とタイ語で話すための努力と苦労を想像してもらえれば、と思っています。9高専連携事業や我が国および国立高専機構の方針、東南アジアの高等機関の状況などから考え、国際交流の機会が増えていくと思いますので、積極的な参加をお願いします。



国際交流関係（シンガポール）

モデスト親善大使

テマセクポリテクとの学生交流を通して
機械・電気システム工学専攻 1年 藤吉 輝明

今回の交流では、互いの国と学校の紹介に加えて、少人数グループでのフリートークが設けられた。私は、今まで外国人と話すとなると緊張のため、変な文法になっていないだろうか、伝わっていないのではないだろうかと不安ばかりが大きくなり、積極的にコミュニケーションを取ることができなかった。今回は自分を変えるいい機会だと思い、積極的に話しかけようと考えていた。実際の交流では自分が知っている範囲の単語と文法を駆使して、何とか考えを伝えようとする相手も同じようにわかるように伝えてくれた。簡単な内容ではあるが、会話が成立すると、次第に積極的に話せるようになり、最後は笑顔で交流を終えることができた。

今回の国際交流を通して私は「世界の近さ」を強く実感した。外国人であろうと、同じ人間で、多少の文化の違いはあれども考えることは似ている。自ら、相手が外国人だから、英語が上手くないからと遠慮してしまうと相手も遠慮してしまう。逆に友達になろうとすれば、相手も快く受け入れてくれる。言葉の壁よりも、心に壁を作らないこと、相手の人柄、暮らしている環境、考えていることに、もっと興味を持つことが大切だと思った。

これからの時代、社会の中で世界と関わらないで生きていくことの方が珍しくなるだろう。日本の中にもたくさんの外国人がいて、飛行機に乗れば数時間で海外に行ける時代である。日本に閉じこもってはいは出会うことのできないものが、一歩踏み出すと、実は意外と近い所にあるのである。自分自身の考え方次第で交流の輪を大きく広げていけることを忘れずに、世界に飛び出していきたい。



2014年夏

生物応用化学科 3年 富安 範行

今年は運に恵まれておりモデスト親善大使に選ばれ有意義な夏休みを過ごすことができました。僕にとってこれが人生初のホームステイでした。10時間を超えるフライトは肉体的にも精神的にも堪えました。けれども空港を出た瞬間、カラッとした心地よい風が僕の頬を撫でました。その時ぼくはアメリカに來たと感じ、喜びが込み上げてきました。そこから目的地のモデストへ移動するとき、道を行き交う車や広大な景色、全てが日本とは違ったもので感動しました。

モデストでの毎日はかけがえのない思い出です。それは一日一日の時間が短く感じられるほどでした。初日から自宅のプールで遊び、現地で有名なハンバーガーを食べに行くなど疲れるまで遊びました。平日は親善大使とモデストを始め、カリフォルニアのあらゆる地域を訪れました。州議事堂や大学、旧市街、サンフランシスコ視察を行いアメリカの文化や歴史に触れることができ、国際事情を知るにはとてもいい経験になりました。ホストファミリーとの休日はスーパーやショッピングモールで買い物をし、お父さんの趣味であるBBQ、ダウンタウンで行われたカーレース観戦、遊園地など他にもまだまだたくさんあります。全てのことが新しくて毎日が楽しくてしょうがありませんでした。特にインパクトが強かったのはスーパーマーケットの商品の数々でした。なんでも安くて大きい、さらにサービスも豊富で日本も真似してほしいと思いました。このように親善大使やホストファミリー、モデストで出会った友達と仲良くできたことが一番の思い出です。楽しかった反面、別れはとても辛いものでした。このホームステイを通してたくさんの貴重な経験をすることができ、視野も広がり、とてもいい刺激になりました。約二週間という期間はあまりにも短く、できるならもっと滞在したいと思いました。

最後になりましたが、この行事に携わってくださった方々に感謝いたします。



清掃活動

学生会清掃活動

学生会 中央執行委員会文化局 局長
制御情報工学科3年 吉田 涼一郎

7月29日10時より、学生会主催で清掃活動を行いました。内容は、商店街でのゴミ拾い、小森野団地や小森野コミュニティセンターの清掃、校内放置自転車の撤去、校内清掃などでした。また、清掃終了後には学生主事の辻先生の支援の下で懇親会が開かれ、スイカやかき氷などが振る舞われました。夏の日差しが暑い中、集まってくださった100名近い学生・先生方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

昨年度から始まった学生会主催の清掃活動ですが、今回の清掃で4回目を数えます。回数を重ねる度に、参加して下さる方々の人数がだんだんと増えており、この活動が少しずつではありますが浸透し始めているのではないかと感じています。これからも、より多くの人々に清掃活動を通して地域に貢献することの大切さ・喜びを感じてもらい、自分たちのまわりの環境がどうなっているのか知ってもらいたいと思っています。その為にも、私達学生会はこの活動をより良いものにしていくために頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。

次回の清掃活動は春休みに行う予定です。多くのみなさんのご協力をお待ちしています。



献血運動推進大会

第47回福岡県献血運動推進大会

学生会 中央執行委員会文化局 局長
制御情報工学科3年 吉田 涼一郎

7月25日に北九州市黒崎ひびしんホールにて、第47回福岡県献血運動推進大会が行われ、献血運動の推進に貢献したとして久留米高専が表彰を受けました。この大会では、長期間に亘り献血運動を行ってきた企業・団体・学校の表彰や、献血についての講演などが行われました。今回の大会を通じて、献血がたくさんの人々によって支えられていること、そして献血の重要性について再確認することが出来ました。

さて、当校では年に2回献血を実施しており、前期は文化部発表会、後期はクラスマッチの日に行っています。どちらの日も100名近い方々の協力をいただいています。協力して下さっている方々に、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。しかしながら、100名という数字はまだまだ少ないというのが現状であり、今後はさらに献血者数を増やさなければならぬと思っています。その理由は、これからの日本における社会状況の変化にあります。現在、日本は少子高齢化社会と言われていますが、今後も更に少子高齢化が加速すると予測されています。血液の必要な高齢者の割合が増えていき、健康な血液をたくさん供給出来る若者の割合が減っていくということは、若者の献血者の割合をもっと増やさなければならないということです。今後、友人や家族、そして自分自身が病気になった時のことを、一人一人が考えてみてください。この記事を読んでくださったみなさんが一人でも多く献血に関心を持ってくださることを願っています。



学生寮の行事報告

寮務主事補 松本 光広

対面式

4月8日(火)夕食時に、学生寮の対面式を開催しました。筑水寮には37名、つつじ寮には7名、さらにマレーシア、インドネシアからの3名の留学生を迎え、新たに47名が加わった寮生の総数は177名となりました。期待と不安に胸を膨らませた新入生を迎えるにあたり、泉本英次寮務主事から、「大勢の集団生活となるので、ホテルのようなサービスを期待したり、アパートのような自由きままな生活を望んではならない。暮らしやすい寮となるよう、寮生ひとりひとりが、規律正しい生活を送ることを期待する」との話があり、新寮長の堀尊嗣君(機械工学科4年)からは「一日でも早く久留米高専に慣れるよう、寮生会は喜んで応援したい」という挨拶がありました。また、今年度で2年目に入る寮務主事室の教員(中尾、松本、谷、米永)が紹介され、最後に、寮生活を楽しめるものに、より有意義なものにするため、全員で協力して素晴らしい寮を作り上げていこうと誓い合いました。



避難訓練

4月17日(木)放課後、避難訓練を実施しました。今回は、学生寮の避難経路、集合場所、点呼方法の確認を行い、地震により倒壊などの恐れがあり、危険であると想定して、避難場所である小森野校区コミュニティセンターに避難しました。材料工学科3年の谷光大成消防副隊長を先頭に、訓練時在寮していた寮生93名(筑水寮75名、つつじ寮18名)は、夕方のラッシュアワーの時間帯にもかかわらず整然と移動し、避難命令を伝える寮内放送から30分後には、小森野校区コミュニティセンターに到着し、点呼により全員無事を確認しました。今回の訓練で、非常時の避難場所、避難経路、避難方法を確認することができました。



春の寮祭

4月19日(土)、学生寮にて春の寮祭を開催しました。今回は、外国人留学生や体験入寮生を含む筑水寮とつつじ寮の寮生約150名が参加しました。昼間はスポーツで汗を流し、夕方からはバーベキューをしながら寮生同士の交流を深めました。寮生会文化委員長である坂本衛君(電気電子工学科4年)をはじめ寮生会文化委員会のお世話により、参加者たちは、賑やかで楽しい一時を過ごしました。



ヘルスチェックキャンペーン

5月8日(木)11時30分～14時の間に、学生寮の食堂業務を委託している株式会社魚国総本社九州支社の協力を得て、ヘルスチェックキャンペーンを開催しました。キャンペーンには寮生約50名が参加し、肌水分の測定、骨の健康度測定に加え、交感神経・副交感神経を測定する機器を利用してストレス度チェックを受けました。測定結果を踏まえて、参加した寮生たちは、食事と健康についてのアドバイスを興味深く受けていました。



Global Village Fair

7月3日(木)及び9日(水)、学生寮食堂において、Global Village Fairと題した国際交流イベントを開催しました。このイベントは、外国人留学生と日本人寮生が一堂に介し、相互の異文化体験などを目的としたもので、マレーシア、インドネシア、バングラディシュ、モンゴルからの長期留学生とタイからの短期留学生、堀尊嗣(機械工学科4年)寮長ほか日本人寮生が参加し、国際交流を行いました。まず、タイの留学生によるスライド説明が行われ、タイ式の三種類の「お辞儀」のスタイルが紹介されました。その後、留学生たちは、折り紙や習字道具を使って、日本文化の一面を体験しました。参加者たちは、



日本語、英語、タイ語、マレーシア語などを交えながらコミュニケーションを取り、楽しいひと時を過ごしながら、外国の文化への理解を深めていました。

和食作法講習会

10月5日(日)、学生寮の食堂業務を委託している株式会社魚国総本社九州支社の協力の下、同社所属の鶴グループ部長、松田料理長を講師に迎え、学生寮において、和食作法講習会を開催しました。この講習会は、洋食のテーブルマナー講習会とともに、平成23年度からそれぞれ毎年1回開催されているもので、今回の講習会には留学生4名を含む寮生の希望者21名(筑水寮17名、つつじ寮4名)が参加しました。普段食する機会の少ない和食のコース料理に参加者たちは緊張しながらも、器の持ち方や箸の上げ下げなどの作法、食材の意味、調理方法などを学びながら、料理を堪能していました。



SmartLife Hack in 福岡

制御情報工学 5年 竹中 孝介

7月の中旬、SmartLife Hack in 福岡というプログラミングの大会がありました。この大会はハッカソンと呼ばれる形式のプログラミングの大会で、土曜日の午後から日曜日の夜という短い期間に、チームで1つの"もの"を作り発表するものです。また、この大会ではAPIと呼ばれるすでに完成した、部分的なプログラム(音声認識、発話理解等)が色々使えるので、それらを使用しながらプログラムを作ることができます。

私達は「殺伐とした駅に癒しを与える」をテーマに「COCO STATION」というアプリを開発しました。このアプリはCOCOROBOというSHARP社製のお掃除ロボットが駅のホームでお掃除をしながら電車の情報や、日経のニュース速報を教えてくれるというものです。また、COCOROBOに「〇〇駅に行きたい!」と話しかけるとその駅に行く方法(どの駅で乗り換えて何時の電車に乗ってなど)を教えてください。

他のチームでは子供の見守りに特化したシステムを作っていたり、食事の際に白ご飯しかなくても、仮想的におかずが見える拡張現実を使ったアプリなど個性豊かなものがありました。

さて、プログラミングは面白い/嬉しい/楽しいところがたくさんあります。

- ・気力が続く限り24時間でもぶっつけで行える
 - ・大会の懇親会などで実際に企業で働いているエンジニアの方々とお話できる
 - ・大会で賞を取った時に賞品/賞金が豪華
 - ・自分の想像したものを実際に創れる
- などなどです。

この記事を見て少しでもプログラミングをしたいと感じた方は @625 @prolabknet (Twitter) にリプライを送るか、プログラミングラボ部(毎週水曜日の放課後SJ)に来てくださればいろいろできます。学科等は関係ないのでプログラミングをしたい人はぜひお越しください。



暗唱大会に挑戦して

生物応用化学科 1年 山西 菜々子

今年の8月、私は熊本高専熊本キャンパスで行われた第47回九州沖縄地区国立高等専門学校英語弁論大会に出場しました。大会にはスピーチの部と暗唱の部の2つがあり、今回久留米高専からはスピーチの部に1人暗唱の部には友人と私の2人で出場しました。スピーチの部は発表者が自分でテーマを決め制限時間内で自分の伝えたい思いを発表し競い合うもので、暗唱の部は設定されたテーマの文章を制限時間なしで、どのようにして同じ文章を表現していくのかを競い合うものでした。

夏休みの前半から先生方との練習を始め、大会に向けて練習を進めました。練習内容として発音、イントネーションそして発声方法を主に行いました。正直、発声方法は暗唱に全く関係ないと思っていましたが、発声方法の練習を続けていくうちに、発声方法だけでなく自然と発音も、イントネーションも最初の頃と比べてとても良くなり、発声方法が人に与える影響力の大きさに驚きました。

日々練習を重ね、大会本番を迎えました。私の発表の順番は暗唱の部の最後だったので、不安になりました。それに加え1人前の発表がとても上手く、直前まで覚えていた内容を一気に忘れてしまい大変焦りました。しかし、夏休み練習してきたことを思い出していくうちに、次第に自信を取り戻し自分にとって納得のいく発表ができました。

結果としては、2位と悔しい順位でしたが今回の大会で他校の生徒との交流も深まり、その人達の素晴らしい英語の発表を聞くことができてとても良い経験になったと思いました。この経験を将来に上手く生かしていけると良いと思います。



全国高等専門学校プログラミングコンテスト 制御情報工学科 5年 福永 隼也

10月18日と19日に全国高等専門学校プログラミングコンテストが開催され、久留米高専からは2チーム計8人が参加しました。高専プロコンは3つの部門に分かれており、私はその中の競技部門に、3年生2人とともに出場しました。競技部門とは、与えられた課題を解くプログラムを大会までに作成し、本番で各高専のプログラムを競わせる部門です。久留米高専はこの部門で強豪として知られており、過去に4度の優勝を収めています。

私達のチームはこの大会に向けて、9月初旬から本格的に開発を始めました。私の編入試験のために開発期間が短くなってしまい、間に合わないのではないかという不安もありましたが、3年生2人が頑張ってくれたおかげで、なんとかプログラムを完成することができました。大会前日や1日目の夜に徹夜で修正や改良を加え本番に臨んだ結果、高専で4位となり、特別賞を頂くことができました。私は3回目の参加でしたが、最後に賞を取ることができてとても嬉しく思います。

反面、今回の競技課題は私達が得意とするタイプの課題だったのでこの結果に悔しさも感じています。また、この大会ではNARPROCK国際プロコンも同時に開催され、日本や海外の大学が参加していました。これらの大学を含めると私達は7位という結果で、力量不足を実感させられました。私はこれで引退となりますが、下級生には、この結果に満足せずさらなる高みを目指して頑張ってもらいたいと思います。



第51回九州沖縄地区高専大会ラグビーフットボール競技 ラグビー部 主将 機械工学科 5年 内田 敦之

この度久留米高専ラグビー部は、第51回九州沖縄地区高等専門学校体育大会ラグビーフットボール競技に出場し準優勝という結果となりました。九州沖縄地区からは上位2校が全国大会に出場できるので、今年も全国への切符を手にすることができた次第です。

久留米高専ラグビー部は練習や戦略に関して、部員が主体となって考え、取り組んでいます。時には先生方に課題克服へのヒントを頂きますが、基本的には部員が自ら考え、実行します。それが久留米高専ラグビー部の最大の特徴であり強みであると思います。

今年のチームは上級生が少ないことや、昨年そうそうたるメンバーを擁しながらも九州大会で優勝できなかった事から、暗い雰囲気の中でシーズンをスタートしました。しかし地道な練習を積み重ねて、自信を持って大会に挑める状態まで上げることができました。

今大会の初戦は有明高専でした。ここ数年で力をつけて来ているチームで、中学時代に全国大会優勝を経験した選手もいます。最近の試合では毎回苦戦を強いられている難敵で、私個人としても苦い思い出のある相手です。昨年の初戦も有明高専だったのですが、その時は優勝して当然といったムードでチームに慢心がありました。その状態でいざ試合となるとミスの連発で味方同士でイライラしい雰囲気は最悪でした。結果的に何とか勝つことは出来ましたが、私は相手を甘く見ていたことに関して無性に恥ずかしく、情けなくなりました。

その苦い経験も踏まえ、今回の試合はメンバー全員が誰ひとりとして妥協することなく、全力で倒しに行くんだという強い意志を持って挑みました。立ち上がり、久留米の集中力が冴え相手の反則に乗じて先制点を奪い、その後も練習してきたDFで有明の攻撃を食い止め、前半を11-0で折り返しました。しかし後半になると集中力が切れてきて、終了間際に2トライを奪われました。しかしなんとか逃げ切ることができ21-14でノーサイドとなりました。

初戦の勝利で勢いに乗り、準決勝の大分戦では82-3で勝つことができました。そして決勝の佐世保戦、開始早々にトライを奪いその後も久留米のプレーが通用し勝てる見込みが十分あったのですが、相手の土俵で戦ってしまい26-10で負けてしまいました。勝てる試合を負けてしまっただけに悔しいというより情けない結果となりました。

しかしまだ全国大会に挑戦することができるので、また鍛え直して全国の舞台で佐世保にリベンジを果たしたいと思います。そのためには部員全員が今まで以上に高い意識を持って練習に取り組む必要があります。今シーズンはこの全国大会が最後の大会になるので、プロセスを大切にこれ以上ないという程の準備をして全力で挑みたいと思います。最後になりましたが日頃よりお世話になっている先生方、OBの方々、学生課の方々、関係者の方々 皆様のお陰で何事もなく部活動に取り組むことができ、今年も全国大会へ進むことができました。このことに感謝の気持ちを表す意味でも、勝つことに使命感を覚え、全国大会で良い結果を残せるよう精進して参りたいと思います。これからもご指導、ご支援の程よろしくお願い致します。



第51回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会(夏季)の主な成績(7月11日～20日)

バスケットボール	男子		準優勝	全国大会出場
硬式野球			準優勝	
ハンドボール			第3位	
バドミントン	男子団体		準優勝	全国大会出場
	女子団体		第3位	
	女子個人ダブルス	4 C本川 彩奈、4 C神之蘭 那帆	第2位	全国大会出場
	女子個人シングルス	4 C本川 彩奈	第3位	
バレーボール	男子		第3位	
柔道	男子団体		第3位	
	男子90kg以下級	2 M田端 侑典	第3位	
陸上競技	110mハードル	4 E足立 智一	第1位	全国大会出場
	女子800m	2 M日下部 沙羅	第3位	
水泳	男子200m自由形	1 S藤村 統太	第3位	全国大会出場
	男子400m自由形	1 S藤村 統太	第1位	全国大会出場
ソフトテニス	女子個人ダブルス	3 M佐藤 清蓮、3 M中島 美徳	第3位	

第49回全国高等専門学校体育大会(夏季)の主な成績(8月19日～31日)

バドミントン	女子個人ダブルス	4 C本川 彩奈、4 C神之蘭 那帆	準優勝
水泳	男子400m自由形	1 S藤村 統太	第3位

第47回九州沖縄地区国立高等専門学校英語弁論大会(8月22日)

暗唱の部	1 C山西 菜々子	第2位
------	-----------	-----

第51回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会(冬季)の主な成績(11月15日～18日)

ラグビーフットボール	準優勝
------------	-----

平成26年度(平成27年3月)卒業予定者の就職内定状況

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
三菱日立パワーシステムズ株式会社 DMG森精機株式会社 株式会社マツダE&T ヤンマー建機株式会社 ANAアイカテクノロジクス株式会社 積水化学工業株式会社 ダイハツ工業株式会社 ファナック株式会社 JXエンジニアリング株式会社 NOK株式会社 三井造船株式会社 千葉事業所 株式会社IHインフラシステム TOWA株式会社 NSウエスト株式会社 キヤノン株式会社 昭栄化学工業株式会社 株式会社モビテック 三菱重工株式会社 名古屋航空宇宙システム製作所 日本精工九州株式会社	アイシン精機株式会社 東芝メディカルシステムズ株式会社 株式会社サン電工社 JRC特機株式会社 昭栄化学工業株式会社 エスエムエス株式会社 株式会社明電舎 富士古河E&C株式会社 イーエクス株式会社 コマツ(株式会社小松製作所) 関西電力株式会社 独立行政法人国立印刷局 中部電力株式会社 独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA) 株式会社ふくれん NSウエスト株式会社 三菱電機システムサービス株式会社 東海旅客鉄道株式会社(JR東海)	富士通株式会社 株式会社日立製作所 三浦工業株式会社 株式会社朝日プリンテック 総合警備保障株式会社 株式会社工苑 TOWA株式会社 株式会社創世エンジニアリング 大電株式会社 京研コミュニケーションシステム株式会社 株式会社イシモク・コーポレーション 関西電力株式会社 九州電力株式会社 株式会社JALエンジニアリング 昭栄化学工業株式会社	和光純薬工業株式会社 東レ株式会社 シオニギ分析センター株式会社 株式会社巴商会 DIC株式会社 東燃化学合同会社 第一三共プロファーマ株式会社 宇部興産株式会社 独立行政法人国立印刷局 昭栄化学工業株式会社 JNC株式会社 東京ガス株式会社 協和発酵バイオ株式会社 株式会社日本生物製剤 花王株式会社 極東石油工業合同会社	日本ビストンリング株式会社 ダイキン工業株式会社 昭栄化学工業株式会社 三井金属鉱業株式会社 セラミックス事業部大牟田工場 DOWAサーモテック株式会社 エンケイ株式会社 東伸精工株式会社 株式会社LIXIL 中部統括工場 日清紡プレーキ株式会社 館林事業所 株式会社太平環境科学センター 株式会社アーレステイ NOK株式会社 株式会社フルヤ金属 矢崎総業株式会社 東プレ九州株式会社 旭電気製鋼株式会社 日本精工株式会社 株式会社東研サーモテック JX日鉱日石金属株式会社 磯原工場 株式会社三松 日之出水道機器株式会社 東洋製罐株式会社 大阪工場

平成26年度(平成27年3月)専攻科修了予定者の就職内定状況

久留米工業高等専門学校

機械・電気システム工学専攻	求職者 男 3 女 0	フジテック株式会社 株式会社日立製作所電力システム社
	内定者 男 2 女 0	
物質工学専攻	求職者 男 6 女 0	株式会社トップゲート 沢井製薬株式会社 大日精工業株式会社 丸東産業株式会社 矢崎総業株式会社 株式会社小松製作所
	内定者 男 6 女 0	

平成27年度 久留米高等学校攻科合格状況

学 校 名	志 願 者 数						受 験 者 数						合 格 者 数											
	機 械		電 氣		制 御		生 化		材 料		計		機 械		電 氣		制 御		生 化		材 料		計	
久留米高専専攻科(推) 久留米高専専攻科(学)前期 久留米高専専攻科(学)後期 合 計	1	2	1	2	4	10	4	10	4	10	4	10	1	2	1	2	1	2	1	2	4	10	4	10
	10	11	11	10	6	48	10	10	11	10	6	47	8	4	6	7	4	6	7	4	29	8	29	
	0	7	4	2	0	13	0	7	4	2	0	13	0	3	2	2	0	3	2	2	0	7	4	
	11	20	16	14	10	71	11	19	16	14	10	70	9	9	9	11	8	9	11	8	46	10	46	

平成27年度 他高専攻科合格状況

学 校 名	志 願 者 数				受 験 者 数				合 格 者 数							
	機 械	電 気	制 御	生 化	機 械	電 気	制 御	生 化	材 料	計	機 械	電 気	制 御	生 化	材 料	計
北九州高専専攻科		1			1	1				1						0
佐世保高専専攻科		1			1					0						0
有明高専専攻科		1			1					0						0
洲郷高専専攻科		1			1	1				0						0
豊田高専専攻科		1			1					0						0
計 合	0	5	0	0	0	5	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0

平成27年度 専攻科 大学院合格状況

大 学 院 名	受 験 者 数			合 格 者 数			入 学 予 定 者 数		
	機 械・電 気 シ ス テ ム 工 学 専 攻	物 質 工 学 専 攻	計	機 械・電 気 シ ス テ ム 工 学 専 攻	物 質 工 学 専 攻	計	機 械・電 気 シ ス テ ム 工 学 専 攻	物 質 工 学 専 攻	計
九州大学大学院(総理工・推)	3	1	4	1	1	2	1	1	2
	9	4	13	8	3	11	5	3	8
九州大学大学院(システム生命科学)		1	1		1	1			0
	2		2	2		2	1		1
	2		2	2		2	2		2
		1	1		1	1			0
九州大学大学院(統合新領域学府)		1	1		1	1		1	1
	2		2	1		1	1		1
九州工業大学大学院(生命体工学研究科)	1		1	1		1	1		1
東京工業大学大学院(総合理工学)		1	1			0			0
京都大学大学院(エネルギー変換研究科)	1		1	1		1	1		1
京都大学大学院(情報学研究科)									
名古屋大学大学院(工学研究科)	1		1	1		1	1		1
長岡技術科学大学(生物機能工学専攻)		1	1		1	1			0
合 計	21	10	31	17	8	25	13	5	18
重 複 者 を 除 く 計	14	7	21	13	7	20			

平成27年度 大学編入学合格状況等

平成26年11月14日現在

大 学 名	志 願 者 数					受 験 者 数					合 格 者 数							
	機 械	電 気	制 御	生 化	材 料	計	機 械	電 気	制 御	生 化	材 料	計	機 械	電 気	制 御	生 化	材 料	計
豊橋技術科学大学(工学:推薦)	1	1	1	1	4	4	1	1	1	1	1	4	1	1	1	1	1	3
豊橋技術科学大学(工学)	1	1	9	1	12	12	1	6	1	6		7		1	6		7	
長岡技術科学大学(工学:推薦)	1				1	1	1					1	1				1	1
長岡技術科学大学(工学)	1	1	1	1	3	3	1	1	1	1	1	3				1	1	2
九州大学(工学)	3	3	1	4	2	13	2	3	3	2	10	1	1	3	1	3	1	5
九州大学(理学)	1	1	1	2	5	5	1	1	1	1	2	5	1				1	1
九州工業大学(情報工学:推)	1	5			6	6	1	5			6	1	4				5	5
佐賀大学(理工学)		1	1	1	2	2		1	1		1	1	1	1		1	1	1
佐賀大学(農学)			1		1	1	1		1		1	1	1	1		1	1	1
熊本大学(工学:推)	1	1			2	2	1	1	1		2	1	1	1	1		2	2
熊本大学(工学)	3	2	2	3	4	14	3	1	2	2	2	10	2	1	1	2	5	5
鹿児島大学(工学)			1	1	1	1	1		1	1	1	1				1	1	1
鹿児島大学(理学)		1			1	1	1				1						0	0
愛媛大学(工学)				2	2	2				2	2					2	2	2
岡山大学(工学)	2	1	1		3	3	1		1	1	2	2	1		1	1	1	1
広島大学(工学)		1	2		3	3	1	1	1	1	2	2			1	1	1	1
広島大学(理学)					1	1					0	0				0	0	0
大阪大学(基礎工)	1				1	1					0	0					0	0
大阪大学(工学)		1			1	1	1		1		1	1	1				0	0
京都大学(工学)		1			1	1		1		1	1	1					0	0
神戸大学(経)		1			1	1					0	0					0	0
神戸大学(農学)			1	1	1	1			1	1	1	1	1			1	0	0
神戸大学(工学)	2	1	1		3	3	1	1	1		2	2					0	0
名古屋大学(工学)		1	1		2	2	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	2
名古屋工業大学(工学)	1		1		2	1	1		1		1	1					1	1
金沢大学(理工学)		1			1	1	1		1		1	1	1		1		1	1
東京大学(工学:推)	1				1	1	1				1	1					0	0
東京工業大学(理学)	1				1	1	1	1			1	1					0	0
東京工業大学(工学)	3	1	1	1	6	6	3	1	1	1	5	1	1	1	1	1	3	3
東京農工大学(工学:推)	1				1	1	1				1	1					0	0
東京農工大学(工学)	1		1		2	1	1	1	1	1	2	1					1	1
首都大東京(都市教養学部)	1				1	1	1				1	1					0	0
首都大東京(システムデザイン学部)	1				1	1	1				1	1	1	1			1	1
横浜国立大学(経済学)		1			1	1					0	0					0	0
横浜国立大学(工学)	1				1	1					0	0					0	0
横浜国立大学(理工学)		1		1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
筑波大学(理工学)	1	3			4	4	1	3			4						0	0
筑波大学(情報学)			8		8	8	6	6			6	6	3	3			3	3
千葉大学(工学)			1		1	1		1	1		1	1		1	1		1	1
電気通信大学(情報理工学部)	1	1			2	2	1	1			2						0	0
宮崎大学(工学)	1				1	1	1				1	1					1	1
琉球大学(工学)	1				1	1	1				1	1					1	1
京都工芸繊維大学		1			1	1					0	0					0	0
北九州市立大学(国際環境工学)			1		1	1		1	1		1		1			1	1	1
大分大学(工学部2次募集)		2			2	2		1	1		1	1					0	0
新潟大学(工学)		2			2	2		2			2		1				1	1
合 計	30	20	31	32	13	126	23	17	23	26	10	99	10	4	14	21	7	56
重複者を除く重数	15	11	16	16	9	67	14	10	16	13	9	62	9		11	14	7	45

本号掲載記事の無断転載を禁止します